

ピアホームだより

2014. 11. 10

依存症

障害を持つとどうしても他者に頼りたくなるのは致し方のないところかもしれません。

精神障害者の場合、多くは強い母子関係が存在するケースが多いと思われます。これは、社会からの支援の乏しさも反映してると思われますが、年老いた親と障害者の家庭という生活形態をはらはらと見守ることが多いのです。

しかし、いずれ親との別れが来る時、この依存関係が強いと破局的な結末を迎えてしまわないとも限りません。

グループホームは、そうした親子関係を調整し、自立を図る良い訓練場所ではないでしょうか？

依存って何だろう？とネットで調べてみると、こんな文章が引っかかって来ましたのでちょっと掲載してみます。

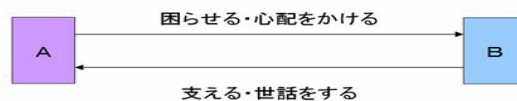
依存症

依存症という嗜癖は、「満たされていない、渴望するなにか」を補填するための代償行為として表れます。それは多くの場合、幼い頃に充足できなかった親に対する「愛着欲求」です。

依存症チェックの三段論法

1. ある人Aが習慣的に〇〇〇を行う
2. それによってある人Bが困る
3. それを知りつつある人Aはその行為〇〇〇がやめられない

依存症を支える二人の関係



A: 当事者(依存症者)
B: イネイブラー(依存症の支え手)

この二者関係ではBがAの世話—息子がギャンブルで作った多額の借金をわが子のためだと母が肩代わりして支払う、泥酔した亭主

が暴れた後でも文句も言わず後片付けをするなど—をすればするほど、Aはますます困らなくなり、むしろ嗜癖を続けるメリットを与えられることになり、その結果Aは「依存症者としての現実」への直面の機会が奪われます。Bが尻拭いをすればするほどAの依存が深まるというパラドクスがこの二者関係に潜んでいます。イネイブラー (enabler) とは、人が×××することを可能にする人、という意味です。それは依存症者の被害者でありつつも、またその依存を促進する者でもあるのです。(参考文献：『依存症』 信田さよ子 著 文春新書)

新入居者挨拶

新しく入居した〇下です。これからピアホームで楽しく皆さんと交流できたなら良いなと思いますので、よろしくお願いします。

リトルハウスに週2回通い始めました。お休みの日は趣味の音楽を聴いたりDVDを観たりしています。

今後のスケジュール

<11月8日> カラオケ行事

<11月29日> 理事会・忘年会